

ポスター | 1-11 心不全・心移植

## ポスター

### 心不全①

座長:高室 基樹(北海道立子ども総合医療・療育センター)

Thu. Jul 16, 2015 4:50 PM - 5:20 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

I-P-055~I-P-059

所属正式名称: 高室基樹(北海道立子ども総合医療・療育センター 小児循環器内科)

## [I-P-056]Fontan術後の成人患者における RDWの心不全に関するバイオマーカーとしての有用性の検討

○中島 康貴<sup>1</sup>, 山村 健一郎<sup>1</sup>, 村岡 衛<sup>1</sup>, 白水 優光<sup>1</sup>, 寺師 英子<sup>1</sup>, 鶴池 清<sup>1</sup>, 平田 悠一郎<sup>1</sup>, 永田 弾<sup>1</sup>, 森鼻 栄治<sup>1</sup>, 坂本 一郎<sup>2</sup> (1.九州大学病院 小児科, 2.九州大学病院 循環器内科)

Keywords:心不全, RDW, 成人先天性心疾患

【背景】赤血球容積粒度分布幅(RDW)は元来貧血の鑑別のために使用されてきたが、近年、虚血性心疾患や、心不全、肺高血圧等の循環器疾患の予後との関連が報告されてきている。先天性心疾患に関しても、RDWが心機能や予後と関連するという報告があるが、成人先天性心疾患、特に Fontan循環の成人患者において RDWの有用性を検討した報告はない。

【対象と方法】2009年から2014年に当院ハートセンター成人先天性心疾患外来に紹介された成人の Fontan循環の患者93例のうち RDWが測定された83例(年齢 $23.7 \pm 5.5$ 才、男性41人、女性42人)を対象とした。

RDWと、心不全に関連する臨床パラメータとして、BNP、 $SpO_2$ 、EF、房室弁逆流、CVP、CI、Rplとの関係を比較検討した。

【結果】今回解析の対象とした患者群において RDW  $14.0 \pm 1.5\%$ 、BNP  $32.8 \pm 37.4$  pg/ml、 $SpO_2$   $93.9 \pm 4.2\%$ 、EF  $62.7 \pm 8.3\%$ 、房室弁逆流 1°(中央値)、CVP  $10.3 \pm 2.9$  mmHg、CI  $3.0 \pm 1.8$  l/min/m<sup>2</sup>、Rpl  $1.5 \pm 0.7$  wood unit/m<sup>2</sup>であった。RDWと BNPの間に有意な正の相関関係を認めた( $R^2=0.08$ 、 $p=0.008$ )が、その他の臨床パラメータとの間には相関は見られなかった。予後に関する検討として緊急入院の有無と臨床パラメータとの関係を解析したところ、緊急入院があった群で有意に高年齢、EF低値、CVP高値であったが( $p<0.05$ )、RDWの値とは有意な関連は認めなかった。(p=0.29)

【考察】Fontan循環の患者においても RDWは、心不全の程度を示す簡便かつ有用な指標となりうると考えられた。今回は、予後との関連は示すことはできなかったが、今後さらなる経過観察とデータの蓄積により、予後の予測にも有用なバイオマーカーとなりうるかについても検討していく必要がある。